

鈴木泰教授

水谷信子先生は、東京女高師文科を経られて、東京大学英文学科を卒業、そのちミシガン大学に留学され、日本語教育の草分けとして、以後40年にわたって日本語教育界で活躍されていらっしゃいます。昭和61年には、お茶の水女子大学国文科に赴任され、日本言語文化専攻の創設とともに言語文化専攻に移られました。そして、専攻の基礎を固められるとともに、優秀な人材を多く日本語教育界に送り出してこられました。そして、惜しまれながらも、今年度いっぱい退官されることになりました。パイオニアとして、ご苦労が多かったことと思われまます。こうした教育活動の一方で、先生は学術研究の面でも活躍されていらっしゃいまして、日本語によるコミュニケーションの問題を軸にされ、外国語としての日本語教育に関わる諸問題、特に英語との比較対照研究にあたってられ、その方面においても、ご著書『日英比較話しことばの文法』の他の輝かしい業績をあげられています。簡単ですが、ご紹介は以上にとどめまして、先生のご講演、「言語と文化と日本語教育」に移らせていただきます。水谷先生、よろしく願いいたします。

言語と文化と日本語教育

水谷信子教授

ありがとうございます。水谷でございます。きょうの前の三本のお話は大変ガッチリとした研究発表で、かたいものでございましたけれども、これからわたしが一時間、時間をいただいてお話ししますことは、漫談のようなものでございますので、どうぞ、落書きでもなさりながらお聞きください。

今お話がありましたように、来年の3月に定年退官をするにあたりまして、国文学科と日本言語文化専攻の合同の研究会を催して、こういう講演の機会を与えてくださるというお話を伺いました時は、大変光栄なことと思って、ありがたくお受け致しましたが、考えてみますと、退官といいましても、勤めさせていただいたのはわずか9年間ですので、やや大袈裟過ぎて申し訳ない気が致します。その題として、長友先生から、これまでやってきたことを話せば、それが即ち日本語教育の歴史になるのだから、つまり、歴史的なお話ばあさんだから、ですから「日本語教育の40年」という題はどうかというお話がありましたけれども、日本語教育40年というには、脇道や試行錯誤